

# 中学校数学科グループ研究会

グループ員：長谷 慎一(天王寺川中学校) 畠中 健 (東中学校)  
中辻 紘生(西中学校) 松浦 信 (南中学校)  
福本 恭 (北中学校) 長岡 友昭(松崎中学校)  
古谷 俊樹(荒牧中学校) 坂本 泰朗(笹原中学校)  
担当指導主事：向井 敬子

キーワード：全国学力・学習状況調査 数学的思考の「見える化」 指導力向上 ICTの活用 小中連携

## 1 研究テーマ

「活用する力を伸ばす授業の工夫」  
基礎・基本の定着と数学的思考の「見える化」を目指して

## 2 研究内容

- (1) 全国学力・学習状況調査結果分析に基づく授業改善
  - ① 関心・意欲を伸ばす取組
    - ・音読計算や5分間プリントの活用
    - ・学習規律の確立
    - ・発問の仕方の工夫
  - ② 基礎・基本の定着を目指す取組
    - ・みんなの学習クラブ等を活用した多様な学習
    - ・家庭学習の充実
  - ③ 活用する力の育成を目指す取組
    - ・読む、書く、聴く力を育てる学習
    - ・言語活動を取り入れた学習（ねらいに応じた学習形態のあり方）
    - ・数学的活動の研究
    - ・数学検定の推進
- (2) 数学科教員の資質向上
  - ・若手教員の育成
  - ・先進校視察 報告
  - ・公開授業実施
  - ・夏季数学科1日研修会
  - ・ICT機器の活用
  - ・指導案作成（全国学力・学習状況調査B問題から）
- (3) 小中連携
  - ・研究授業における交流
  - ・新入生テストを活用した取組
  - ・入学前課題実施
- (4) 研究会の実施内容

第1回	6月12日	年間計画 市内全体会準備 全国学力・学習状況調査の分析
第2回	7月13日	夏季数学科1日研修会について 各校の「見える化」について
	8月7日	夏季数学科1日研修会 テーマ：数学的思考力をひき出す授業 講演会 演題：数学科授業における問題解決過程の「見える化」について 授業者・講師：山梨県教育庁 義務教育課 教育指導担当 主幹 指導主事 清水 宏幸 氏
第3回	9月1日	夏季数学科1日研修会の振り返り 全国学力・学習状況調査分析 (誤答分析を踏まえて)
第4回	10月13日	全国学力・学習状況調査分析（各校の取組と照らし合わせて） 各校の「見える化」について

第5回	11月6日	全国学力・学習状況調査分析（各校の取組と照らし合わせて） 各校の「見える化」について
第6回	12月17日	全国学力・学習状況調査分析（最終調整） 2月の全体会・総会について
第7回	1月14日	新入生テストに向けて 今年度のまとめ
第8回	2月16日	次年度に向けての準備

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

- ① 今年度は数学的思考の「見える化」について研究をすすめ、各学校の実践に即した研究を進めていくことができた。
- ② 昨年度までの取組の成果として「全国学力・学習状況調査」のA・B問題について全国平均を上回る結果を得た。それを踏まえ分析に時間をかけることで、各研究員の普段の授業実践について話し合いの場を多く設け、授業技術の共有を図ることができた。各学校で情報共有し、伊丹市内の数学力の向上を図る授業の展開をねらいとし、「全国学力・学習状況調査」の分析冊子にはその過程を掲載した。
- ③ 8月7日（夏季休業中）、伊丹市立総合教育センターにて数学科1日研修会を実施した。午前は、講師に山梨県教育庁義務教育課教育指導担当 主幹 指導主事清水 宏幸 氏を招き、数学科授業における問題解決過程の「見える化」について模擬授業と講演をいただいた。午後からは講師の清水先生・伊丹市数学科特別顧問の川勝健二先生にもご参加いただき、各校の数学的思考の「見える化」についてグループ討議を行い、「見える化」についての理解を深める機会となった。

#### (2) 課題

- ① 今年度の研究テーマである数学的思考の「見える化」を来年度の公開授業の指導案に組み込んで研究を進める上で、伊丹市数学科教員の教科指導の助けとなり、また、生徒の理解の助けとなるよう十分に検討しながら行う必要がある。
- ② 「全国学力・学習状況調査」では、今年度も伊丹市は全国平均を上回る結果であった。これは本市数学科としての研究の成果だと捉えている。しかし、この結果に甘んじることなく更なる高みを目指して研究を進めていく必要がある。
- ③ 小中連携事業の推進が行われていなかった。来年度は出前授業や授業見学を検討し、小中連携事業を推進していく必要がある。